

世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる 連続リレー講義

産業界・官界のトップランナーがオムニバス形式で講義をします。

今、企業でどんな人材が求められているのか？

学生に何を身に付けてほしいのか？

土曜の午後を、貴方のキャリアアップの時間に充ててください。



総合科目 I・III



2017

大学院共通科目

世界に挑む産業界トップリーダーによる 大学院アドバンスト・ ディスカッションコース

産業界のトップランナーが、大学院生を対象にディスカッションを通して

社会人の基礎力として、グローバルに考え行動するために重要な

さまざまな能力を育成します。



JAPICとは

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会（Japan Project-Industry Council：JAPIC）は、1979年に産業界の複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際的協力と産官学民の交流を通じて叡智を結集し、国民の安全安心と持続可能で豊かな社会づくりに向けて、産業・経済、環境・資源・エネルギー、教育、国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、国家的諸課題の解決に寄与し、日本の明るい未来を創生することを目的として活動して参りました。現在39業種約200社の企業、地方自治体、団体、NPO等から構成され、年間延べ1万人の実務家が公益的な立場から、1. プロジェクトの企画・実現、2. 政府関係機関への政策提言、3. 産官学民交流のためのプラトホーム形成等活動を行っています。



JAPIC会長
宗岡 正二
Shoji Muneoka
新日鐵住金(株) 代表取締役会長

開設趣旨

いま世界では、新興国の急成長、産業や市場のボーダレス化、ICT技術の進歩などにより、人材や情報、資金が国境を越えて行きかい、同時に国や都市・地域間の競争が激化しています。一方で少子高齢化や地球規模での環境問題、資源エネルギー問題など、世界を取り巻く様々なグローバルアジェンダに対処していくことも求められています。

この時代を生き抜く学生は、「人・社会・国に尽くす、更には国際社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励み、一方でこの講義で説く『社会基礎学』の習得が必要不可欠と考えます。本リレー講義では、社会基礎学とは何かを探求し、全学群生を対象に、今後の大学生活で身に付けるべき知識、教養、想像力や構想力向上をサポートします。

具体的には以下の6分野にプライオリティを置き、産業界・官界・政界のトップリーダーがリレー講義を実施、皆さんとともに考えます。

- ①「グローバル化と日本のあり方」、②「政治・政策」、③「安全保障・憲法」、④「経済・産業」、⑤「資源・エネルギー」、⑥「世界／アジア」(順不同)

・1226151「世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続リレー講義：社会基礎学へグローバル人材に不可欠な教養I」
(総合科目Iとして春学期開講)

・1G26031「世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続リレー講義：社会基礎学へグローバル人材に社会が求める教養」
(総合科目IIIとして秋学期開講)

また、大学院生を対象に、産業界のトップリーダーによるアドバンスト・ディスカッションコースを開設します。最新の社会、国際、ビジネス等分野の課題を捉え、議論を行い、深く考察していきます。

・01ZZ513「世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる大学院アドバンスト・ディスカッションコース」
(大学院共通科目として春学期開講)

・01ZZ515「世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる大学院アドバンスト・ディスカッションコース」
(大学院共通科目として秋学期開講)

【総合科目の開設目的】

総合科目I：初年次学生（1年次生）が新しい学習環境に適応して、自律的にキャリア形成を始めることを助けます。

総合科目III：1・2年次における基礎、専門基礎教育と2・3年次における専門教育をベースに、社会で活躍する際に必要となる幅広い視野と学際的なものの見方、国際性及び社会適合性を涵養することを目的としています。

【大学院共通科目の開設目的】

大学院生が多様なキャリアパスや様々な社会的要求に対応できる柔軟性と選択性を身につけ、時代に即した社会の需要に対応できる「豊かで逞しい人間力」を強化することを目的として、「知識の教授のみに偏らない高度な大学院教育の実現」を基本方針に、高邁な意識や高い倫理観を醸成しつつ、さらに能力やスキルの向上に資する「大学院生の基盤能力の向上」を担保するために大学院共通科目を開設しています。

学生に期待するもの

講義全体のキーワードである、「グローバル化とは何か」、「グローバル化の中で日本は?」について理解し、様々な地球規模の課題に対して強い関心と好奇心を持ち、グローバル時代に果敢にチャレンジし活躍する人材を目指すことを期待します。



グローバル化に対する筑波大学の取り組み トランスボーダー大学への挑戦



《国際性の日常化》

- 「エリア・コモンズ」
 - ・英語対応可能なグローバル・スタッフを各支援室に配置
- 職員向け語学研修の拡充、TOEIC等受験費補助
- 外国人との交流の場を設置
 - ・コスモスカフェ、コスモスチャット、GC-CHAT
 を開催し、教職員・学生（外国人・日本人）が自由におしゃべり
- 教職員のグローバル化
 - ・「英語ができる」ではなく、「グローバル化」の観点でものを考える力。



《グローバル人材育成》

- 学生海外渡航支援
 - ・「はばたけ・筑大生!」
 - ・「つくばスカラシップ」
- グローバルヴィレッジの設置
 - ・筑波大学の学生寮は元々「留学生会館はなく」、日本人学生との混住型。これを一歩進め、ルームシェアとしての寮を設置。
- グローバル人材育成推進事業／大学の世界展開力強化事業に基づく人材育成
 - 【採択事業】
 - ・GGJ (H24)
 - ・世界展開力：欧州(H23)、アセアン(H25)、ロシア(H26)、中南米(H27)
 - ・スーパースーパーグローバル大学創成事業(H26)
- 2学期6モジュール制
 - ・Cモジュール(7月中旬～8月上旬)を活用した短期海外留学



《海外大学との連携》

- Campus-in-Campus
- 海外オフィス設置(12ヶ国・地域)
- ジョイント・ディグリー／デュアル・ディグリー
- 大学間協定(H29.3.1現在)
 - ・65ヶ国・地域及び国際連合大学と大学間交流141協定、部局間交流200協定、合計341協定
- 語学研修
 - ・グローバル・コミュニケーション教育センター(CEGLOC)実施
- ➔英：オックスフォード大学、独：バイロイト大学、露：サンクトペテルブルク大学等

《海外同窓会》

- Tsukuba Alumni Network (T-Net)
 - ・主に海外に居住する筑波大学同窓生のネットワーク強化を目的として開設された「つながりの場(プラットフォーム)」

《入試改革》

- IB入試
- グローバル入試

《研究成果の情報発信》

- Tsukuba Global Science Week (TGSW)
 - 筑波大学ならびに筑波研究学園都市における最新研究のショーケース。
 - 毎年9月に、世界30か国、100を超える研究機関から脳科学から芸術まで様々な領域の研究者を招いて開催。

《産学連携》

- つくばグローバル・イノベーション推進機構(つくば国際戦略総合特区等)
- JAPIC (Japan Project-Industry Council) との連携
 - ・連携講座の開設



春AB 1226151

社会基礎学～グローバル人材に不可欠な教養Ⅰ

オーガナイザー教員 ●野村 港二 (教育イニシアティブ機構・教授)

第1回
4/22
【土】
13:00~16:40

【導入講義Ⅰ】筑波大学におけるグローバル人材育成方針

徳永 保 Tamotsu Tokunaga

筑波大学教員 大学執行役員(大学戦略・企画評価担当) 大学研究センター長

プロフィール 1976年、旧文部省入省。文部科学省研究振興局長、高等教育局長などを歴任。2010年国立教育政策研究所長。2012年から筑波大学教授。1991年-1992年米国連邦政府・国立科学財団(NSF)に派遣。高等教育局長在任中にグローバル30(大学国際化拠点整備事業)、教育の質保証を伴う日中韓の大学間交流事業を立ち上げた。主な著書に「アメリカの大学の管理運営(1992)」「グローバル人材育成のための大学評価指標」(2011)などがある。

佐藤 忍 Shinobu Sato

筑波大学教員 生命環境系教授 教育企画室長

プロフィール 1987年より筑波大学で教えている。植物生理学、特に細胞壁と根の機能が専門。本リレー講義には教育企画室長として関わっている。神奈川県出身。趣味：古典園芸系植物・野草の栽培

【導入講義Ⅱ】連続リレー講義の意味・意義と狙い

三浦 潔司 Kiyoshi Miura

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事

プロフィール 1988年新日本製鐵(株)入社。厚板営業部に在籍し、建築・土木造船、建設機械、産業機械等幅広い分野への営業を担当。2011年より5年間、(株)富士鉄鋼センターにおいて経営を担い、工場の統廃合を経験。2016年より現職。



【パネルディスカッション】【第1部】

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?

【パネルディスカッション】【第2部】

学生は何を学び、何を身に付けるべきか?

窪田 朗 Akira Kubota

【パネリスト】

新日鉄住金(株) 自動車鋼板営業部 自動車鋼板第一室長

プロフィール 1993年新日本製鐵(株)(現：新日鉄住金(株))入社。人事、自動車鋼板営業部(海外営業)、秘書等を経て、2012年から自動車鋼板輸出室長、16年より現職。主に国内自動車メーカーの営業、当社自動車鋼板事業戦略の立案に従事。東京都出身。趣味：街歩き、史跡めぐり。

吉村 麻央 Mao Yoshimura

【パネリスト】

石破茂衆議院議員 政策担当秘書

プロフィール 早稲田大学在学中、米コロンビア大学短期留学、政策担当秘書資格試験に合格。多くのアルバイトを経験し、卒業後、石破茂事務所勤務、在職20年。国務大臣防衛庁長官秘書官などを務め、公務にて海外出張を多数経験。陸上自衛隊予備自衛官として15年間登録(昨年退職)。尊敬する人(?)はヨダ。

徳永 保 Tamotsu Tokunaga

【パネリスト】

筑波大学教員 大学執行役員(大学戦略・企画評価担当) 大学研究センター長

プロフィール 1976年、旧文部省入省。文部科学省研究振興局長、高等教育局長などを歴任。2010年国立教育政策研究所長。2012年から筑波大学教授。1991年-1992年米国連邦政府・国立科学財団(NSF)に派遣。高等教育局長在任中にグローバル30(大学国際化拠点整備事業)、教育の質保証を伴う日中韓の大学間交流事業を立ち上げた。主な著書に「アメリカの大学の管理運営(1992)」「グローバル人材育成のための大学評価指標」(2011)などがある。

佐藤 忍 Shinobu Sato

【パネリスト】

筑波大学教員 生命環境系教授 教育企画室長

プロフィール 1987年より筑波大学で教えている。植物生理学、特に細胞壁と根の機能が専門。本リレー講義には教育企画室長として関わっている。神奈川県出身。趣味：古典園芸系植物・野草の栽培

三浦 潔司 Kiyoshi Miura

【パネリスト】

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事

プロフィール 1988年新日本製鐵(株)入社。厚板営業部に在籍し、建築・土木造船、建設機械、産業機械等幅広い分野への営業を担当。2011年より5年間、(株)富士鉄鋼センターにおいて経営を担い、工場の統廃合を経験。2016年より現職。

野村 港二 Koji Nomura

【コーディネーター】

筑波大学教員 教育イニシアティブ機構教授 大学院共通科目委員会委員長

プロフィール 1988年秋田県立農業短期大学講師、1991年より筑波大学で教えている。植物生理学、特に分化全能性が専門。本リレー講義には大学院共通科目委員長として関わっている。東京都出身。趣味：サボテンづくり、自転車の組み立て、大工仕事

講義概要 グローバル化とは何か?日本経済の諸課題を浮き彫りにした上で、安全保障、資源、エネルギーなど様々な観点から議論を進め、日本の進むべき未来を論じる。グローバル人材とは何か?産官学の第一人者たちが次世代のリーダーに必須となる素養について論じ、この講義で学んで欲しいことを明確化する。



日本外交の現状と課題

秋葉 剛男 *Takeo Akiba*

外務省 外務審議官

プロフィール 1982年外務省入省。事務次官秘書官、総合外交政策局国連政策課長、国際法局国際法課長、アジア大洋州局中国・モンゴル課長、在アメリカ合衆国日本国大使館公使、国際法局長、総合外交政策局長などを歴任し、2016年6月より現職。神奈川県出身。趣味：サッカー。

講義概要 中国が台頭し、米国やヨーロッパの政治が大きく変動する中で、我が国の外交が直面する課題を紹介する。

ダイバーシティと人材活用

～国際機関、アジアに於けるマネジメントから日本の女性起業支援へ～

原田 文代 *Fumiyo Harada*

(株)日本政策投資銀行 国際統括部 担当部長 兼 女性起業サポートセンター長

プロフィール 平成4年に入行後、地域開発プロジェクトや発展途上国等への技術支援、海外企業の対日投資、日本企業の対外インフラ投資等を担当した後、国際金融公社にて東アジアのインフラ整備に従事し、DBJシンガポール副社長を経て2015年2月より現職。海外中心に多様なバックグラウンドを持つ人材のマネジメントを経験し、種々の女性起業支援に携わるとともに、アジア関連ビジネスを担当。

講義概要 女性の視点による新たなビジネスと日本企業のより一層の海外進出は、我が国の更なる成長に欠かせない新たな市場創出と社会変革の原動力として求められています。DBJ女性起業サポートセンターにおける支援活動や、世界銀行グループの国際金融公社、DBJシンガポール現地法人における海外金融実務と人材マネジメント業務を通じて自身で培った知見と経験に基づき、組織におけるダイバーシティマネジメント論を独自に解説します。

第2回

5/20
[土]

14:00～17:00

現代の金融システム

吉村 隆 *Takashi Yoshimura*

ゴールドマン・サックス証券(株)コンプライアンス部門統括 マネージングディレクター

プロフィール 1985年日本銀行入行。IMF出向、ニューヨーク事務所次長、政策委員会室企画役を経て、2007年ゴールドマン・サックス証券(株)の現職に就任。日本創生委員。趣味：旅行、オペラ、ゴルフ。座右の銘：天網恢恢疎にして漏らさず。

講義概要 金融は企業や個人が経済活動を行う上で不可欠な役割を果たしている。その一方で経済に悪影響を与えることもあり、悪者扱いされることも多い。講義では金融が個人の生活や企業活動にどう役立っているかについて、具体的にみたとうえで、どう活用していくことが望ましいかを考えてみたい。

途上国・新興国に対する日本の貢献 ～日本の政府開発援助を振り返る

江島 真也 *Shinya Ejima*

(独)国際協力機構(JICA) 理事

プロフィール 1983年海外経済協力基金(OECF)採用。組織改編に伴い国際協力銀行(JBIC)を経て2008年10月よりJICA勤務。2016年10月理事に就任。この間、東南アジアや南アジアの開発途上国への政府開発援助(ODA)、とりわけ有償資金協力(円借款)を通じてインフラ事業の推進に従事。在外経験はタイ、フィリピン、スリランカ、インド。最近の趣味はインド時代に始めたポリウッドダンス。

講義概要 そう遠くない過去に日本の途上国援助額が、10年間にわたり世界一だったことをどれだけの方が記憶しているだろう。最近では世界4位だが、これはわが国の国力低下の反映なのか、東南アジアや中国などが援助を必要となくなったのか、はたまた新興国の援助が日本にとって代わったのか。開始から60年が過ぎた日本の政府開発援助を振り返りつつ、わが国に期待される開発途上国・新興国への支援や貢献について考える。

第3回

6/3
[土]

13:30～16:30

日本政治の現状と課題

伊藤 宏 *Hiroshi Ito*

朝日新聞社 水戸総局長

プロフィール 1992年、朝日新聞社に入社。静岡、福島両支局員を経て、1997年に政治部員。首相官邸、自民党、外務・防衛両省などを担当。その間に、米ハンダービルト大学に客員研究員として留学。2009年4月からアメリカ総局長(ワシントン)として、日米関係、米国政治、米大統領選などを担当。2013年4月より政治部次長。2017年4月より現職。

講義概要 安倍晋三首相が就任から4年を超え、長期政権の様相を見せている。内政・外交に様々な課題を抱える中、この1年、安倍政権はどう動き、どこへ向かおうとしているのか。今年に入ってからの政権の様相な動きを振り返りつつ、今年後半の政権の課題を見通す。あわせて首相官邸の権力が強化されている政治的構造などについても解説する。

日本が誇る環境都市づくりの海外展開

石川 貴之 *Takayuki Ishikawa*

(株)日建設計総合研究所 理事 上席研究員

プロフィール 1987年日建設計入社。京セラドーム周辺、なんばパークス開発等の大規模都市開発業務に従事。2008年より(株)日建設計総合研究所にて東アジアを中心に低炭素都市業務に従事し、近年は官民連携の海外展開支援の仕事を中心にロシアにおけるスマートシティ計画にも携わっている。山口県出身。学生時代はバスケットボール一色。現在は週一のジム通いで体型をкаろうじて維持。

講義概要 地球規模での人口爆発と都市化が進展する中で、地球温暖化対策として都市の低炭素化(環境都市化)を進めることが必須条件となりつつある。特に成長・発展の著しい東アジアの新興諸国においては、我が国と同様の高温多湿の気候風土を有しており、日本が培った様々な省エネ技術を活用して環境都市化を進めることが有効である。本講義では近年我が国の官民が連携して取り組んでいる環境都市の海外展開について概説する。

第4回

6/17
[土]

13:30～16:30

交通・観光ビッグデータがもたらす変革

野津 直樹 *Naoki Nozu*

(株)ナビタイムジャパン 交通コンサルティング事業部 事業責任者

プロフィール ナビゲーションサービスを通じて培ってきたデータ・技術・ユーザ基盤を活かした交通・観光ビッグデータの分析業務に従事し、全国の交通最適化や国内観光・インバウンド観光振興を通じた地域活性化に取り組む。学術分野における主要な業績として、観光情報学全国大会にて大会優秀賞を2年連続受賞(第12回・第13回)。和歌山大学国際観光学術研究センター客員研究員。

講義概要 カーナビや乗換検索といったナビゲーションサービスは、今や交通インフラの一部として定着し、月間ユニークユーザ3500万人を誇るナビタイムジャパンにはその利用実績データが大量に蓄積されています。本講義では、渋滞対策、イベント時の突発的移動需要検出、観光施設の集客、訪日外国人の回遊など、交通・観光ビッグデータの幅広い分析事例を紹介した上で、ビッグデータが交通・観光分野にもたらす変革について議論します。

第4次産業革命の実現に向けて

～ロボット・ドローンを中心に～

片岡 隆一 *Ryuichi Kataoka*

経済産業省 製造産業局 産業機械課長

プロフィール 1993年通商産業省入省。通商白書2010の執筆責任者、マクロ経済政策の司令塔事務局(経済対策・経済見通し、内閣府に出向)、日本経済再生に向けた成長戦略(内閣官房日本経済再生総合事務局に出向)、マクロ経済の調査分析(経済産業政策局調査課長)、財政健全化等(財務省主計局参事官に出向)を経て、昨年6月より現職。

講義概要 日本は、世界最速で少子高齢化が進展する一方で、世界の成長センター・アジアに位置し中国とも近い。失われた20年とされるデフレから脱却し、地方創生・経済再生と財政健全化を同時に達成するには、国内対外の双方で断然なイノベーションが求められる。600兆円経済を始め一億活躍社会の実現にとって重要な鍵となる第4次産業革命、その重要な要素であるロボットやドローンを中心に日本の進むべき方向性を考える。

第5回

6/24
[土]

13:30～16:30

秋AB 1G26031

社会基礎学～グローバル人材に社会が求める教養

オーガナイザー教員 ● 五十嵐 浩也 (芸術系・教授、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター長)

第1回
10/14
【土】
13:30~16:30

【導入講義】連続リレー講義の意味・意義と狙い

三浦 潔司 *Kiyoshi Miura*

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事

プロフィール 1988年新日本製鐵(株)入社。厚板営業部に在籍し、建築・土木造船、建設機械、産業機械等幅広い分野への営業を担当。2011年より5年間、(株)富士鉄鋼センターにおいて経営を担い、工場の統廃合を経験。2016年より現職。

【パネルディスカッション】【第1部】

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?

【パネルディスカッション】【第2部】

学生は何を学び、何を身に付けるべきか?



進藤 秀夫 *Hideo Shindo*

◀パネリスト

内閣府 大臣官房審議官(科学技術・イノベーション担当)

プロフィール 1986年通商産業省入省。(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構ワシントン事務所長、経済産業省産業再生課長、紙業生活文化用品課長、大学連携推進課長、(独)産業技術総合研究所企画本部副本部長、東北大学理事(産学連携担当)などを経て2016年7月より現職。神奈川県出身。趣味：よく食べ眠り、そして歩くこと。

川手 康司 *Koji Kawate*

◀パネリスト

みずほ銀行 産業調査部 公共・社会インフラ室長

プロフィール 1992年第一勧業銀行(現みずほ銀行)入行。法人営業部門や投資銀行部門(不動産ファイナンス業務)を経て、2014年より現職。営業部では、大手流通事業者やデベロッパー等を担当。現部署におけるカバー産業は、不動産・住宅、住設・建材、建設、陸海空運、ホテル・レジャー、医療・介護・シルバー。東京都出身。趣味：ゴルフ、読書。

五十嵐 浩也 *Hiroya Igarashi*

◀コーディネーター

筑波大学教員(芸術系・教授)/ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター長

プロフィール GKインダストリアル・デザイン研究所、富士ゼロックスデザイン研究所を経て、筑波技術短期大学聴覚部デザイン学科、そのうち現職。

講義概要 グローバル化とは何か?日本経済の諸課題を浮き彫りにした上で、安全保障、資源、エネルギーなど様々な観点から議論を進め、日本の進むべき未来を論じる。グローバル人材とは何か?産官学の第一人者たちが次世代のリーダーに必須となる素養について論じ、この講義で学んで欲しいことを明確化する。

太田 誠 *Makoto Ota*

◀パネリスト

21世紀政策研究所 事務局長

プロフィール 1986年経団連事務局入局。国際経済本部調査役(北東アジア、ロシア担当)、産業政策本部次長(産業政策、国際物流政策担当)、国際協力本部副本部長(韓国担当)を経て、2012年より現職。1991年～95年ソウル駐在。専門は李氏朝鮮の外交思想と行政過程論。博士(学術/東北大学)。

三浦 潔司 *Kiyoshi Miura*

◀パネリスト

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事

プロフィール 1988年新日本製鐵(株)入社。厚板営業部に在籍し、建築・土木造船、建設機械、産業機械等幅広い分野への営業を担当。2011年より5年間、(株)富士鉄鋼センターにおいて経営を担い、工場の統廃合を経験。2016年より現職。

都市ソリューションの輸出

野田 由美子 *Yumiko Noda*

PwCアドバイザリー合同会社 パートナー インフラ・PPP部門統括、都市ソリューションセンター長

プロフィール 日本長期信用銀行(現新生銀行)ロンドン支店プロジェクトファイナンス部次長を経て、PwC英国法人入社。日本のPFI市場の創設と発展に深く携わる。2007-09年横浜市副市長。国土交通省交通政策審議会委員、シンガポール政府CLCのUrban Solution Advisory Panelメンバー他。東京大学、ハーバードビジネススクール(MBA)卒業。

講義概要 世界のメガトレンドであるUrbanization(都市化)は、交通・環境・災害など多様な都市課題を引き起こすとともに、世界の都市間競争を加速させている。こうした中、世界の都市のリーダーは今、どのようなチャレンジに挑んでいるのか。急速な都市化を経験・克服し、環境に優れた都市を構築してきたわが国には何ができるのか。「都市ソリューション」をキーワードに、わが国の成長と世界への貢献について考える。

GDP600兆円に向けた経済産業省の取組

佐々木 啓介 *Keisuke Sasaki*

経済産業省 商務情報政策局 サービス政策課長

プロフィール 1993年通商産業省入省。製造産業局クールジャパン室企画官、経済産業省産業資金課長 兼 新規産業室長を経て、2015年7月より商務情報政策局サービス政策課長を担当。GDP600兆円の達成に向け、サービス産業の生産性向上に取り組んでいる。

講義概要 政府が掲げるGDP600兆円を達成するためには、GDPの7割以上を占めるサービス産業の生産性向上が不可欠である。本講義ではそのための施策である、①ITツールの導入等による生産性の底上げ、②スポーツ産業・観光産業といったフロンティア市場の開拓、③国外にも日本のサービス産業の市場を拡大するための海外展開支援、④生産性向上の基盤となるおもてなしの質の認証制度や経営人材育成、等の取組を紹介する。

第2回
10/28
【土】
13:30~16:30



総合商社の活動、国際情勢、 少子高齢化の現実

島崎 豊 *Yutaka Shimazaki*

丸紅(株) 執行役員 秘書部長 兼 広報部長

プロフィール 1982年丸紅(株)入社。海外におけるインフラ施設の建設および投資事業に従事し、特に上下水等の水ビジネスを先がけて推進。経営トップの財界・社外活動の補佐業務や社業の広報活動に従事。日本創生委員。慶応義塾リーディング大学院特任教授。東京都出身。学生時代：体育会グランドホッケー部所属。趣味：スイミング、ゴルフ。

講義概要 総合商社のビジネスの内容と最近の国際情勢、そして日本が直面している少子高齢化を取り上げ、わが国が進むべき方向を考える。

日本経済の展望と課題

岡部 央 *Hiroshi Okabe*

(一社)共同通信社 編集局 次長

プロフィール 1983年に共同通信に入社し、日銀、財務省、首相官邸、経済産業省、外務省などで経済政策を担当。1997年から3年間、ワシントン特派員として、アジア金融危機などの取材を経験した。2011年から2年間、経済部長。その後、総務局次長兼人事労務部長を経て、2013年から編集局次長を務めている。日本の「今」を、海外に情報発信する英文雑誌の編集委員も務めた。京都市出身。

講義概要 波乱含みの国際経済情勢を読み解く鍵はどこにあるのか。高度成長期を終えた中国経済の軟着陸、構造的な原油安など世界経済の行方を展望する。民主党政権からアベノミクスまで、日本の経済運営の課題を検証しながら、人口減少時代の中での経済活性化に向けた日本の課題を考察する。

第3回

11/11
[土]

13:30~16:30

企業経営の現状・課題と戦略

右田 彰雄 *Akio Migita*

新日鐵住金(株) 常務執行役員 人事労政部長

プロフィール 1984年新日本製鐵(株)(現 新日鐵住金(株))入社。2015年人事労政部長、2017年常務執行役員(現職)。(財)企業活力研究所雇用・人材開発委員会委員長、(公)東京労働基準協会連合会中央労働基準協会支部長等の活動を含め、我が国企業、とりわけ製造業の雇用・労働政策に企業実務の立場から積極的に関わる。

講義概要 本格的少子高齢化とそれに伴う内需縮小、国際的にはアンチグローバリズム、ブロック経済化のリスク等、我が国のものづくり産業が直面する課題は従来にも増して複雑化しつつある。本講義では、国内において企業統合と生産効率の極限向上を進める一方、海外では現地生産化とアライアンスネットワークの構築している新日鐵住金の事例をもとに、受講生の皆さんとともに、我が国製造業の今後と人事政策のあり方を考えてみたい。

日本の安全保障環境と防衛政策

鈴木 敦夫 *Atsuo Suzuki*

防衛省 大臣官房審議官

プロフィール 1985年防衛庁入庁。米国防大学国家戦略研究所客員研究員、運用局運用課長、運用企画局国際協力課長、防衛政策局調査課長、防衛政策局防衛政策課長、大臣官房米軍再編調整官、情報本部副本部長(兼)大臣官房審議官、防衛政策局次長などを経て現職(いずれも当時の名称)。

講義概要 国際テロ組織の活動の活発化・拡散、力を背景とした現状変更の試み等、安全保障上の課題や不安定要因は、複雑かつ多様で広範にわたっており、一国のみでの対応はますます困難なものになっている。そのような中、我が国は、新しい安全保障・防衛政策によってどう対応しようとしているのか。特別な軍事知識等は不要。時事問題を扱いながら分かり易く解説したい。

第4回

11/25
[土]

13:30~16:30

地方自治の視点から社会資本整備を考える

森 民夫 *Tamio Mori*

前全国市長会 会長・前長岡市長

プロフィール 1975年建設省(現国土交通省)入省、東京ドームや恵比寿地区開発等のビッグプロジェクトに携わる。茨城県住宅課長、阪神淡路大震災建築物危険度判定本部長、中国建設部派遣、地域住宅計画官を歴任。1997年長岡市長に初当選(以降5期)。中越地震からの復興、市町村合併、アオーレ長岡の建設等に取り組む。2009年全国市長会会長に就任(以降4期)。2016年退任。

講義概要 人口減少が進む中で、インフラの老朽化、頻発する自然災害、地方の疲弊などの諸課題に地方自治体としてどのように対応していくか。また、限られた財源の中で、市民の理解を得ながら、如何にして将来にわたって持続可能な社会資本整備を実現していくか。さらには、インフラ整備と市民生活の質の向上とを如何にして両立させるか等について、長岡市等の現場の実態を踏まえつつ地方自治体経営の視点から具体的に考える。

【パネルディスカッション】我が国が直面する構造改革と社会資本整備

森 民夫 *Tamio Mori*

▶パネリスト

前全国市長会 会長・前長岡市長

プロフィール 1975年建設省(現国土交通省)入省、東京ドームや恵比寿地区開発等のビッグプロジェクトに携わる。茨城県住宅課長、阪神淡路大震災建築物危険度判定本部長、中国建設部派遣、地域住宅計画官を歴任。1997年長岡市長に初当選(以降5期)。中越地震からの復興、市町村合併、アオーレ長岡の建設等に取り組む。2009年全国市長会会長に就任(以降4期)。2016年退任。

中原 淳 *Jun Nakahara*

▶パネリスト

首都高速道路(株) 取締役常務執行役員

プロフィール 1987年東京大学法学部卒、建設省入省。ゼネコンの経営再生や道路公団等の民営化等を担当する一方、外交官としてニューヨークで米大統領選挙の分析、静岡県でまちづくりに携わる。その後、国土交通省大臣秘書官、PFI/PPPを担当する官民連携政策課長、インフラ老朽化等を担当する参事官等、道路局総務課長を経て、現在、首都高速道路(株)取締役常務執行役員に就任。趣味は、ヴァイオリン演奏、音楽鑑賞、登山、ワインなど。

平石 和昭 *Kazuaki Hiraishi*

▶パネリスト

エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ(株) 副社長

プロフィール 1984年(株)三菱総合研究所入社。運輸政策研究所やアジアパイプライン研究会への出向等を経て2016年10月より現職。この間、新幹線等大規模交通インフラの需要予測・経済効果分析、北東アジア天然ガスパイプラインの企画・構想立案、社会インフラ海外展開等のプロジェクトに参画。専門は、土木計画、交通経済、エネルギー経済。広島県出身。趣味：ゴルフ、テニス、音楽鑑賞、散歩。

五十嵐 浩也 *Hiroya Igarashi*

▶コーディネーター

筑波大学教員(芸術系・教授) / ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター長

プロフィール GKインダストリアル・デザイン研究所、富士ゼロックスデザイン研究所を経て、筑波技術短期大学聴覚部デザイン学科、そののち現職。

春ABC 01ZZ513

流動化する世界とこれからの日本



混迷の度を深める世界の中で日本は？ 難局に立ち向かう皆さんの決心は？

世話教員

- 野村 港二 (大学院共通科目委員長、教育イニシアティブ機構・教授)
- 佐藤 忍 (教育企画室長、生命環境系・教授)
- 石田 東生 (特命教授)

担当教員

田邊 弘幸 *Hiroyuki Tanabe*

筑波大学客員教授・双日(株) 顧問

プロフィール 1968年日商岩井(株)入社。双日(株)エネルギー金属資源部門長、専務執行役員、代表取締役副社長・米州総支配人などを経て2011年現職就任。ハーバード・ビジネススクールAMP修了。日本創生会委員。三重県伊勢市出身。趣味：音楽。学生時代大学のオーケストラに参加。NY駐在中はオペラ、交響楽団など演奏会詣でに熱中。4年前から男性合唱団に入団、その魅力に惹かれつつある。

講師

6/8(木)

デビッド・ウイリアム *David Williams* 双日(株) 社員

プロフィール イギリス出身。現地の日系企業で人事の経験を積んだのち、2005年に双日欧州会社にHRマネージャーとして入社。ロンドンをベースに欧州全域とロシアの人事全般を担当。2011年に双日本社へ異動し、現在はグローバル人事チームリーダー。

アシュリー・マーフィー *Ashley Murphey* 双日(株) 社員

プロフィール アメリカ出身。Japan Exchange and Teaching Program(JET)で2009年来日し、5年間、福井県で外国語指導助手。2014年に双日に入社し人事総務部グローバル・人材育成課に所属。主に外国人採用、本社社員のグローバル教育を担当。

パネリスト

7/6(木)

西原 茂 *Shigeru Nishihara* 筑波大学客員教授 双日(株) 専務執行役員

プロフィール 1986年日商岩井(株)入社。双日(株)石炭部長、経営企画部長、経営企画・IR・広報・情報企画・物流保険の担当役員などを経て2016年4月より現職。愛媛県松山市出身。高校・大学時代はラグビー部に所属。会社のラグビー部にも入部したが、その後、路線を変えて山登りを開始。現在は、ゴルフやジョギング、禅寺での早朝座禅。また、なかなか参加できなくなっているが、10年前から仲間と田んぼを借りての米作りを楽しんでいる。

倉田 聡彦 *Akihiko Kurata* 双日(株) 人事総務担当役員補佐

プロフィール 1987年日商岩井(株)入社。主計部、米国工作機械販売会社、経営企画部、生活産業部門企画業務室長を経て、2016年11月より現職。神奈川県出身。大学時代はスキューバダイビングのとりことなり、ショップでの指導員経験もある。大所帯である人事総務担当役員補佐として、各種の改革に取組む毎日を送っている。

キーワード

- ・議論を通して他者を知り、自分と異なる相手を知る事により、自己を客観的に見る訓練をすること。
- ・知らない空間を埋める作業を怠らない事により、知見を積み上げよう。
- ・自己点検作業と変革を求める人は是非参加してみよう。

第1回
5/11
【木】
13:00~

筑波大学

- 自己紹介・予め提起されたアンケートに基づく発表と議論
- 本ゼミのテーマ講義(資料事前配布)と全員参加による議論展開

第2回
6/8
【木】
13:00~

筑波大学

- 世界情勢の激変と日本の対応について
- 英国人・米国人の講師を迎えての講義と全員での議論(英語と日本語)(Brexit Trump大統領就任のインパクトは?)
- 事前に提起された宿題(課題)と発表、議論

第3回
7/6
【木】
13:00~

双日(株)
本社 21階

- パネルディスカッション
テーマ：日本企業の国際戦略と望まれるグローバル人材像
パネラー：西原 茂(双日(株)専務執行役員)、倉田 聡彦(双日(株)人事総務担当役員補佐)
コーディネーター：田邊 弘幸(双日(株)顧問)
- ラップアップ・セッション(ゼミ全体を振り返る。課題への対応。)
(17:30~ 双日社内カフェテリアにてレセプションを開催予定)



秋AB 01ZZ515

テクノロジーとグローバルで拓く未来



未来を拓いて行く為には、グローバルに考え・行動する事と、テクノロジーの活用（特にDisruptive Technology）が重要である。

世話教員

- 野村 港二 (大学院共通科目委員長、教育イニシアティブ機構・教授)
- 佐藤 忍 (教育企画室長、生命環境系・教授)
- 石田 東生 (特命教授)

担当教員

岩田 眞二郎 *Shinjiro Iwata*

株式会社日立製作所 アドバイザー

プロフィール 1972年4月、(株)日立製作所に入社、海外営業部門に配属となり初めて英会話に取組んだ。その後、シンガポールに6年間駐在。又、シリコンバレーで通算12年間を過ごし、2社の買収会社の経営に携わった。その後、執行役専務情報・通信システム社長などを経て、2013年、代表執行役執行役員副社長、2016年より現職。米国の単身赴任時代に家事全般を習得し、料理も趣味の一つとなった。

メンター

12/11 [月]

安達 保 *Tamotsu Adachi* 株式会社ベネッセホールディングス 代表取締役社長橋崎 浩一 *Koichi Narasaki* SOMPOホールディングス株式会社 執行役員

プロフィール 1977年三菱商事入社。米国MITにてMBA取得後、第二電電(現KDDI)に出向し、ベンチャー企業の立ち上げに携わる。1988年からマッキンゼー・アンド・カンパニーにて、情報通信・ハイテク産業分野のコンサルタント業務に従事した後、GEキャピタル・ジャパン事業開発本部長、日本リースオート社長等を歴任。2003年からカーライル・グループ マネージングディレクター・日本代表を務め、中堅企業を中心に20社以上に投資。2016年10月から現職。趣味は、愛犬2匹との散歩と料理。

プロフィール 1981年早大卒三菱商事入社。同社米シリコンバレー(SV)支店勤務後、2000年現地ベンチャー ineo,Inc.入社、2002年(株)ACCESS入社、2007年IP Infusion, Inc.CEO就任、5年間で売上5倍と黒字化達成。2011年ACCESS社COO、2015年Midokura President&COOを経て2016年SOMPOホールディングス グループ CDO就任。米SVに延べ11年間滞在。米MBA、米CPA、電気通信主任技術者、第1級陸上無線技術士、応用情報技術者等資格多数保有。趣味は読書と映画とマリンスポーツ。ゴルフでシングル目指すも道半ば。

キーワード

夢と情熱。ビジネスは知的格闘技。Disruptive Technology。
グローバルに戦う。質問力/問題発見能力/仮説構築力。

第1回
10/7
[土]
13:00~

筑波大学

● グローバルに生き・仕事をして行く

何故、今、グローバル化が必要なのか、そして、ビジネスのグローバル展開に必要な事は何か、を米ビジネスの視点・経験を踏まえて議論する。同時に、グローバルに生き・仕事をして行く為に、必要な人材像、ビジネス文化の相違についても議論・検討する。

第2回
11/11
[土]
13:00~

筑波大学

● テクノロジーで未来を拓く

何故、日本の将来にとってテクノロジーが重要かを議論・検討する。そして、「イノベーションのジレンマ」を教材に使い、テクノロジーが産業に与える影響を研究する。又、事例研究として、富士フィルム及び日立製作所を取り上げ研究する。

第3回
12/11
[月]
13:00~

都内の
日立施設

● テクノロジーで未来を拓く

第2回に引き続き、何故、日本の将来にとってテクノロジーが重要かを議論・検討する。そして、「イノベーションのジレンマ」を教材に使い、テクノロジーが産業に与える影響を研究する。又、事例研究として、富士フィルム及び日立製作所を取り上げ研究する。

● グローバルに活躍する人達からのメッセージ

企業で実際にリーダーとしてグローバルに活躍する経営者から、これまでの経験、今後の方向、課題について講演を頂き、それに対し、質疑応答を通じ理解を深める。(決まり次第お知らせ)



教員の声 Faculty Member's Voice



教員の声

Faculty Member's Voice 01



教育企画室長
生命環境系教授

佐藤 忍

Shinobu Sato

知的でエキサイティングな土曜の午後

皆さん、知的でエキサイティングな土曜の午後に春日キャンパスで過ごしてみませんか?この講義は、産業界・官界で活躍されている社会人の方々から、現代社会が直面する諸問題に関するホットでリアルな話を、実体験を交えながら聴くことができるまたとない機会です。普段、新聞やテレビのニュースでしか見聞きすることができない問題に日々接しておられる方々から、専門的な見地からの話が直に聞けるのです。学群の一年生から大学院生、そ

して私の様な教員までもが聴講していますが、そのお話に皆が魅了されています。講師の先生方とのディスカッションの時間も豊富に用意されていますので、積極的に自分の意見を表明して議論に参加しませんか?教室でお会いしましょう!

大学院 Advanced Discussion Course への誘い

大学院 Advanced Discussion Course は日立製作所・元副社長の岩田眞二郎教授と双日・顧問の田邊弘幸教授という業種は異なるけれどもともに海外経験豊かなビジネスリーダーお二人をお迎えし、日本が抱える課題、その中で若い力に期待するものを共に考え、意見を交換する場です。商社マンとしての世界経済の見方と国際感覚、そしてその中で日本の針路への洞察、技術系経営者としてのテクノロジーとイノベーションに向けた熱意は

私自身にとってもワクワクするものです。課題も多く出され少し大変かもしれませんが、それは自らの考えを深め、分かりやすく説明するという現代人にとっての必須のスキルの涵養に有効です。またお二人の広い交友関係から多彩なゲストスピーカの話の聞けることも大きな魅力です。自分を鍛え、さらに成長するため、そしてクラスを共に作り上げるために教室にいらっしゃいませんか。

教員の声

Faculty Member's Voice 02



特命教授

石田 東生

Haruo Ishida

教員の声

Faculty Member's Voice 03



大学院共通科目委員長
教育イニシアティブ機構教授

野村 港二

Koji Nomura

大学院共通科目、特にアドバンスト・ディスカッションコースでリーダーになるトレーニングを

大学院修了者が社会の需要に的確に応えるためには、大学院で身につける学問や実務における高い専門能力とともに、豊かで逞しい人間力が必要になります。本学では、知識の教授に偏らない大学院教育を実現するため、コミュニケーション能力や高い倫理感、グローバル社会の中にあって本質を考えぬ力、キャリアについて考える力などを修得するために、大学院共通科目を開設しています。アド

バンスト・ディスカッションコースは、企業トップとして世界をリードしてきた講師が、現実とどう向き合い、将来をどう見据えてきたか、いつどのような決断をしてきたかなど、知識とスキルの使い方を実践的に身につけられる講義です。大学院共通科目、特にアドバンスト・ディスカッションコースでリーダーになるトレーニングを始めてください。



Student's Voice 学生の声

生命環境科学研究科 地球科学専攻 1年次 **松日樂 達哉** *Tatsuya Matsuhira*

出席学生
の声
Student's
Voice 01

今後の日本を引っ張っていく人、必修です!

私は大学院から筑波で研究をしています。私は連続リレー講義と大学院アドバンス・ディスカッション講義を全て受講し、変化の激しい時代の中で生き抜くための世の中の見方を学びました。学群、大学院、日本人、留学生、文系、理系問わずこの講義をとる価値はあります。なぜなら、世界の第一線で活躍されている減多に会えない方々と直接議論を交わし、自分の価値観や考え方、世界の見方を拡張する事が出来るからです。

連続リレー講義では、産業界・官界の方々から多角的に日本・世界の現状や課題・将来像を見る事で、鮮明に日本・世界の「いま」と「これから」が浮き彫りになってくる感覚を覚えました。また、大学院アドバンス・ディスカッションでは、世界を飛び回ってきた総合商社の先生や総合電機メーカーの先生と少人数で議論を交わし、世界で活躍する人の価値観に触れ、自分の価値観を磨きあげる事が出来ます。

今後の日本を引っ張っていく人、必修です!

情報学群 情報メディア創成学類 1年次 **秋庭 理恵** *Rie Akiba*

出席学生
の声
Student's
Voice 02

幅広い教養のある人間に近づけると思っています

私がJAPICリレー講義を受講しようと思ったきっかけは、年度始めに説明を受けてパンフレットを見たことです。私はひとつの分野にとどまらない幅広い教養を身につけることを目指しています。このリレー講義こそ自分があまり知らない経済、経営、防衛、インフラなどの多岐にわたる分野の知見を得られるのではないかと考え、受講に至りました。

例えば、都市ソリューション分野の方を招いた回では、日本の急速かつ大規模な発展に成功した都市力に着目して、経験知=ソリューションごと売り込むことで都市化が成功するのではないか、という意見を伺い、日本には発展してきた経験、様々な問題を解決してきた経験という財産があることに気づくことができました。日本という国単位に限らず、様々な業界、企業に埋まっている経験知を活用できればいいなと思うようになりました。

また、社会資本系の方々をお招きしたパネル・ディスカッションの回では、都市の発展と社会資本整備の順序や段階はどのように進むのか、需要のない社会資本整備はリスクが高いが、社会資本整備が進んでいない新しいものには手を出しにくいのではないか、などの矛盾について疑問を抱くことができるほど考えさせられました。

このように、この講義は大学生の世界では知ることができない、社会で実際に活躍している方の現地の声、現状、目指すべきところを伺える貴重なものでした。大学生という社会人として、身の回りから世界までを見渡す様々な視点を得られたことを嬉しく思います。ぜひ、リレー講義を受講してみてください。幅広い教養のある人間に近づけると思っています。

人間総合科学研究科 体育学専攻 2年次 **五賀 友継** *Tomotsugu Goka*

出席学生
の声
Student's
Voice 03

実利的な知見を知り得る良きチャンス

私は大学学部卒業後に大手石油開発会社で6年間勤務後に、研究者となるべく大学院へ戻って来ました。そのため、学生の視点とは少し異なった視点で、本講義を受講した後に感じた、講義の特徴を述べたいと思います。

まず、普段の大学生活の中で、企業活動を知る機会というのは非常に限られています。プロジェクトの動かし方、ビジネスの現場の話などを聞くことができ、もし私が学部生の時に本講義を受講していたら、就職の選択に影響を与えていたと思います。次に、大学を卒業後、会

社に就職すると、他社の動向をこのような機会を知り得ることはありません。他社の役員の方から、直接その会社の事業活動について、フランクに話を聞く機会も減多にあるものではありません。

以上のことから、本講義は筑波大学生にとって、現在日本の国際展開している企業の最前線の現場で何が起きているのか、地政学を絡めながら実利的な知見を知り得る良きチャンスだと思いますので、本講義の受講を強くお勧めいたします。

システム情報工学研究科 社会学専攻 1年次 **秋保 佳祐** *Keisuke Akiho*

出席学生
の声
Student's
Voice 04

グローバルに活躍する講師の先生方の講義や討論は自身の進路を考える上で大きく役立ちました

様々な分野の最前線で社会課題の解決に取り組むトップリーダー達の講義は、通常の大学生活では聞く事のできない内容で、多くの刺激を得られました。同時に、幅広い視野で物事を観察する事の重要性や、複雑化している社会課題を解決するためには、様々な分野の教養が必要不可欠である事を認識する事ができました。

私は将来、土木系の技術者として世界で活躍する事を夢見ています。今の自身にどのような能力が必要なのか。グローバル化する社会

ではどのような人材のニーズがあり、自身の能力と、どうマッチできるのか。世界で活躍する講師陣の講義を聞き、討論を重ねる事で、自身を振り返り、考察する良い機会になりました。

本講義で学んだ、幅広い視点・視野の必要性を忘れずに、今後の大学院生活・進路選択に役立てていきたいと思っています。自身を振り返り、将来を考えるきっかけを与えて頂いた、本講義と講師の方々に深く感謝致します。

総合科目 I 春AB 社会基礎学 グローバル人材に不可欠な教養 I オーガナイザー 野村 港二	第1回 4/22 [土] 13:00~16:40	[導入講義 I] 筑波大学におけるグローバル人材育成方針 [導入講義 II] 連続リレー講義の意味・意義と狙い [パネルディスカッション] [第1部] グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は? [パネルディスカッション] [第2部] 学生は何を学び、何を身に付けるべきか?	徳永 保・佐藤 忍 三浦 潔司 窪田 朗・吉村 麻央 三浦 潔司・徳永 保 佐藤 忍
	第2回 5/20 [土] 14:00~17:00	日本外交の現状と課題 ダイバーシティと人材活用~国際機関、アジアに於けるマネジメントから日本の女性起業支援へ~	秋葉 剛男 原田 文代
	第3回 6/3 [土] 13:30~16:30	現代の金融システム 途上国・新興国に対する日本の貢献~日本の政府開発援助を振り返る~	吉村 隆 江島 真也
	第4回 6/17 [土] 13:30~16:30	日本政治の現状と課題 日本が誇る環境都市づくりの海外展開	伊藤 宏 石川 貴之
	第5回 6/24 [土] 13:30~16:30	交通・観光ビッグデータがもたらす変革 第4次産業革命の実現に向けて~ロボット・ドローンを中心に~	野津 直樹 片岡 隆一
総合科目 III 秋AB 社会基礎学 グローバル人材に社会が求める教養 オーガナイザー 五十嵐 浩也	第1回 10/14 [土] 13:30~16:30	[導入講義] 連続リレー講義の意味・意義と狙い [パネルディスカッション] [第1部] グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は? [パネルディスカッション] [第2部] 学生は何を学び、何を身に付けるべきか?	三浦 潔司 進藤 秀夫・太田 誠 川手 康司・三浦 潔司
	第2回 10/28 [土] 13:30~16:30	都市ソリューションの輸出 GDP600兆円に向けた経済産業省の取組	野田 由美子 佐々木 啓介
	第3回 11/11 [土] 13:30~16:30	総合商社の活動、国際情勢、少子高齢化の現実 日本経済の展望と課題	島崎 豊 岡部 央
	第4回 11/25 [土] 13:30~16:30	企業経営の現状・課題と戦略 日本の安全保障環境と防衛政策	石田 彰雄 鈴木 敦夫
	第5回 12/2 [土] 13:30~16:30	地方自治の視点から社会資本整備を考える [パネルディスカッション] 社会資本整備と構造改革から見た我が国の成長戦略	森 民夫 森 民夫・中原 淳 平石 和昭

春ABC 流動化する世界 とこれからの日本 担当教員 田邊弘幸	第1回 5/11 [木] 13:00~	自己紹介・予め提起されたアンケートに基づく発表と議論 本ゼミのテーマ講義と全員参加による議論展開	田邊 弘幸
	第2回 6/8 [木] 13:00~	世界情勢の激変と日本の対応について 英国人・米国人の講師を迎えての講義と全員での議論 (英語と日本語) 事前に提起された宿題 (課題) と発表、議論	田邊 弘幸 David Williams Ashley Murphey
	第3回 7/6 [木] 13:00~	パネルディスカッション ラップアップ・セッション	田邊 弘幸 西原 茂・倉田 聡彦
秋AB テクノロジーと 拓く未来 担当教員 岩田 眞二郎	第1回 10/7 [土] 13:00~	グローバルに生き・仕事をして行く	岩田 眞二郎
	第2回 11/11 [土] 13:00~	テクノロジーで未来を拓く	岩田 眞二郎
	第3回 12/11 [月] 13:00~	テクノロジーで未来を拓く グローバルに活躍する人達からのメッセージ	岩田 眞二郎 安達 保・植崎 浩一